

# 野外フェス参加者のライフスタイルに関する研究

## ～マーケティング戦略に向けて～

スポーツマーケティングゼミナール 1214086 高澤 香映

### 1. 研究動機・研究目的

かつて音楽業界を支えていた 6,000 億円以上の CD 等による音楽パッケージ市場の売上高は、2016 年には 3 分の 1 程度まで減少している(日本レコード協会,2017)。市場全体として、2007 年の 4,666 億円をピークに、2014 年には 2,979 億円となり、現在も降下傾向である(日本レコード協会,2015)。しかし、音楽パッケージ市場と音楽配信市場が低落する一方で、ライブ・音楽フェスティバル市場は拡大し、堅実な伸びを見せている。音楽フェスティバル(以下フェス)の市場規模と参加人数は年々増加し、2015 年の総動員数は 234 万人で、市場規模は 222 億円となった(ぴあ総研,2016)。

ライブ・フェスは出演するアーティストや会場、公演日時やチケット価格などを吟味した上で選定しても、売り上げを決定づけるのは消費者の嗜好や感覚といった要素のため、経験価値経済に代表される不確実性が高いビジネスである。そのためフェスの開催にあたって、いかにして公演のターゲットとなる顧客のニーズを把握するかが重要なプロセスと考えられる(西口,2015)。

そこで本研究では、野外フェス参加者のライフスタイル構造を把握し、野外フェスにおけるマーケティング戦略の検討を試みる。

### 2. 研究方法

東京都で行われた野外フェスや単独ライブにて、野外フェスに参加したことのある 78 名に質問紙調査を行った。調査期間は 2017 年 10 月 21,26,28 日の 3 日間である。調査項目は、個人的属性、1 か月に自由に使える金額、運動習慣、過去 1 年間のフェス・ライブ参加回数と、井澤ら(2013)が設定したレジャーライフスタイル 49 項目を用いて「あてはまらない」から「あてはまる」までの 5 段階評定尺度を設定した。

すべての項目について単純集計を行い、全体の傾向を把握した。また、レジャーライフスタイル尺度において、因子分析を行い、抽出された因子と属性の因子得点を比較するために一元配置分散分析を行った。分析には統計分析ソフト SPSS を用いた。

### 3. 主な結果と考察

サンプルのレジャーライフスタイル構造は「休息因子」「成長因子」「希望因子」「外的因子」「家族因子」「健康因子」の 6 つの因子で構成されていた。次に、因子得点を 6 つの因子とサンプルの個人的属性やフェスの参加経験で比較したところ、以下の 5 点が明らかとなった。第一に、休息因子は運動習慣がないサンプルの方が高く、成長因子と希望因子は運動

習慣があるサンプルの方が高かったことから、運動習慣での有無によって差があることが確認された。第二に、年代別での比較で、休息因子、成長因子、外的因子、健康因子の4つに有意差が確認された。このことから年代によってレジャーライフスタイルが異なり、休息を重視するのは40代以上に多く、年齢が若いほど楽しいことに興味があり、活発なことが考えられる。第三に、都市型屋内フェスの参加経験での比較で、休息因子と成長因子、希望因子に有意差が確認された。都市型屋内フェスの参加経験がないサンプルは休息を重視していると考えられる。第四は、郊外型野外フェスの参加経験で、休息因子のみに有意差が確認された。郊外型野外フェスの参加経験がないサンプルは休息を重視することが考えられる。第五に、サンプルが自身に最もあっていると感じたフェスの形態ごとで比較したところ、有意差が確認されたのは休息因子のみで、都市型屋内フェスに参加するサンプルは休息を重視すると考えられ、郊外型野外フェスを最も自身に合っていると答えたサンプルは休息をあまり重視せず、余暇の活動に行動的で充実した生活をしていると考えられる。

#### 4. 結論

サンプルが最も自身に合っていると感じたフェスでの比較は、都市型屋内フェスと答えたサンプルが休息因子で最も高かったため、アクセスの良さや天候に左右されないなど、比較的参加するのに容易であることから参加していることが考えられる。

各フェスでサンプルのライフスタイルに違いがあることから、都市型屋内フェスの場合はアクセスの良さや、暑さや天候の影響がないことを中心的に、郊外型野外フェスでは敷地の広さや、普段では感じることのできない開放感などをプロモーションしていくことで、新たな消費者の獲得と継続に繋がるのではないかと考えられる。

今回のサンプルは休息を好み、あまり外出を伴わず、音楽なども自宅などで鑑賞することが推察されるが、都市型屋内フェスには参加する傾向がある。また、比較的年代が高く、金銭的にも余裕があると考えられる。そのため、都市型屋内フェスでの出演アーティストの調整や、大人でも楽しめる場の提供をすることで若い人だけでなく、大人の集客につながると考えられる。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文の執筆にあたりご協力いただいた工藤先生、同じゼミナールの先輩、同級生、後輩、調査をうけていただいた方々に大変感謝しております。ありがとうございました。

調査を進めるにあたり、先行研究の勉強不足やスケジュール管理不足などにより、多くの方にご迷惑とご心配をかけてしまったこと、大変申し訳なく思っております。

しかし、担当教員の工藤先生をはじめ、先輩方や同級生、後輩の皆様の励ましと助言を頂くことができたからこそ、無事に卒業論文の提出に至りました。大変感謝の気持ちで一杯です。卒業後、教員として働くこととなりますが、今までの経験を大切に、精進していきたいと思っております。ありがとうございました。